

えこサポ☆メールマガジン第2号：2018.7.23 配信

本日14時23分、5年振りに国内最高気温が更新されてしまいました。熊谷が復活！この先も高温傾向が続くとのことですので、今シーズンはこれで収まるとは言えないようです。皆様くれぐれも熱中症にはご用心ください。

西日本豪雨（平成30年7月豪雨）では、広島、岡山、愛媛を中心に広範囲に甚大な被害が出てしまいました。犠牲になられた200名以上の方々のご冥福をお祈りするとともに、被災者の皆様にお見舞い申し上げます。

#### ◆倉敷市真備町地区の現状

20日（金）に倉敷市真備町地区のボランティアに参加してきました。小田川の堤防決壊現場に近いMさん宅の片づけを5名のボランティアで手伝いました。2階に避難したものの、腰まで水につかり、自衛隊のボートで救出されたそうです。水が引いた自宅は既に家財道具が搬出され、壁と天井からはがされた石膏ボードが床に散乱していました。私たちはそれを袋に詰めて、軽トラックで指定の置き場まで運びました。井原線の高架下には3m以上の高さに災害ゴミが延々と積み上げられていました。

ボランティアセンターでは、熱中症予防のため20分作業したら10分休憩すること、感染症予防のためゴーグル・マスクを着用することなど、細かな注意がありました。実質的な作業は2時間足らずで、不完全燃焼でしたが、Mさんからは「おかげで作業がはかどり、先が見え、気持ちが楽になりました。ありがとうございました。」と感謝の言葉をいただきました。短時間のボランティアでも喜んでいただけて何よりでした。

倉敷市のハザードマップでは、まび記念病院周辺は最大5m以上の浸水が想定されていましたが、住民にはその深刻さが十分伝わっていなかったという印象を持ちました。現地では「岡山は災害のない県だった」という言葉をよく耳にしました。これは群馬県にも当てはまります。「自分たちは大丈夫」と思い込む「正常性バイアス」は避難のタイミングを遅らせる原因となります。

#### ◆適応策で身を守る

一方、高知県は愛媛県より雨量が多かった中で、被害を最小限に抑えられたのは、これまでの台風被害への対応経験が活かされたと言われています。土砂災害警戒区域を含め、自宅周辺にどのようなリスクがあるのか確認し、いざというとき早めに避難するという意識を家庭や地域で共有しておくことが大切です。

復旧作業を苦しめているのが連日の猛暑です。熱中症で体調を崩す人も多く、乾燥した泥が呼吸器や目の感染症のリスクを高めています。

この熱波は日本だけでなく、ヨーロッパや北極圏にも及んでいます。今に始まったことではありませんが、「地球温暖化に対するブレーキがいよいよ外れてしまったのではないか」との思いがよぎります。ブレーキが壊れかけた宇宙船地球号を何とか制御していかなければなりません。熱波と豪雨の害から身を守る適応策と、温暖化にブレーキをかける緩和策、今こそ本気で、全力で取り組まなければ取り返しのつかないことになる」と強く認識した岡山での体験でした。

【スタッフ自己紹介】都合で星野君が先になりました。

事務局職員の星野です。

これまで地球温暖化問題に関心こそありましたが、実生活において温暖化防止対策への努力をいかに怠ってきたかをセンター職員になることにより再認識いたしました。

主に環境G S関係の業務を担当します。  
今年度より事務局スタッフが入れ替わり、万全な体制とは言えませんがセンターご利用の皆様のお役に立てるよう努めて参りますのでよろしくお願い致します。

(文責：副センター長 片亀 光)

\*\*\*\*\*

群馬県地球温暖化防止活動推進センター エコサポ  
(NPO 法人地球温暖化防止ぐんま県民会議)

所在地：〒371 - 0854 前橋市大渡町1-10-7

電話：027 - 289 - 5944

F A X：027 - 289 - 5945

Mail：[info@gccca.jp](mailto:info@gccca.jp) URL：<http://www.gccca.jp/>

\*\*\*\*\*